

異分野が緩やかにつながる「ツール」 ～地域通貨の実践(静岡県掛川市)

1. 地域体協が目指す「地域貢献度・日本一」

掛川市体育協会平成21年度の事業方針は、全国市町村体育協会の中で「地域貢献度・日本一」を目指して！です。

通常体育協会の方針は、生涯スポーツの推進とか競技力の向上というのが一般的ですが、当体協の大方針は、あえて地域貢献を掲げています。グローバルな時代だからこそ、逆に地域体協の進む道は、いかに地域づくりに貢献できるかが重要だと考えている訳です。

当体協は自主事業として、地域の総合型クラブ「掛川総合スポーツクラブ(略称:掛スポ)」を創設し、平成17年4月より活動を開始しています(本号「寄稿」参照)。市のスポーツ振興計画が灯台であれば、掛スポの活動はその実践部隊で、地域住民のスポーツ活動を支援する役目です。

2. 環境保全や地産地消も含めた 「ひとづくり、地域づくり」

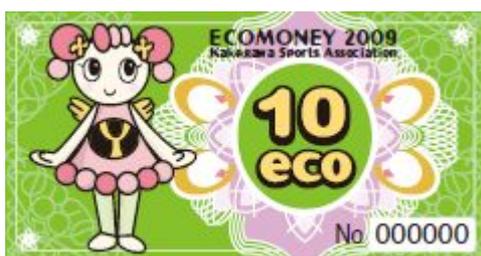
さて、体協では今年度より「掛川・大家族構想」をスタートしました。

これは地域住民が掛川の同じ仲間としてスポーツ活動だけでなく、環境保全やエコ活動などのボランティア活動を通じ、ひとづくりや地域づくりを推進したいという想いで、その推進事務局が「掛スポ」です。具体的には掛スポクラブの「クラブ内クラブ」事業として、さまざまな域貢献活動を推進していきます。



また、体協はスポーツ活動以外の新規事業として「体協農園」に挑戦しています。農業体験は、子どものひとづくりを始め地産地消や食育の推進にも関係し、運動の基本である身体づくりにも繋がるプログラムです。

このように地域に貢献する活動は、スポーツだけではありません。掛川市にもそれぞれの分野で熱心に活動している市民団体がたくさんありますので、重要なのが様々な市民活動団体との協働です。お互いをあまり束縛しない緩やかなネットワークが大切で、そのツールとして「地域通貨」(意味は、文末参照)に注目したのです。



掛川市地域通貨 「10eco」



掛川市地域通貨 「50eco」

3. ボランティア活動のお礼に地域通貨

体協では来年度より本格的な地域通貨の流通循環を目指しますが、今年度の展開方法は体協活動を主体とした「ボランティア活動と地域通貨」の流通です。

市の「市民活動団体モデル委託事業」の承認を受け、農園事業や海岸清掃などのボランティア活動のお礼として地域通貨をもらう体験や、収穫祭やフリーマーケットで地域通貨をつかう体験などの社会実験を実践しています。

4. 地域通貨を流通させて価値を生み出す

例えば、地産地消や食育を推進する市民団体が料理教室を開催し、その参加には地域通貨が使えるというしくみができると思います。

地域通貨のさらなる流通循環として、その市民団体は料理教室の参加者から回収した地域通貨で、教室に必要な農作物を地元農家から仕入れることが可能になり、地元農家はボランティア援農のお礼に、販売時回収した地域通貨が活用できます。

地域通貨は預金しても価値を生まない通貨で、流通循環してなんぼの通貨です。地域で循環することで、新たな出会いや日本円ではまかなえない価値が生まれるのです。



農作物等のフリーマーケット

5. 地域通貨の導入と今後の課題

地域通貨利用の基本は、商品やサービスの対価に全額使えるのではなく、せいぜい10%相当分での使用が大切です。残り90%は日本円で支払うのが良く、このことでボランティア事務局の財源を圧迫せず、地域通貨が潤沢に流通循環することが可能になります。

今後の課題は、さらなる流通循環のしくみづくりです。特に、地域通貨のつかえる地域協力店の開拓と、この協力店が回収した地域通貨の活用方法です。

また、市民団体に地域通貨の活用をアピールすることも重要です。

市民活動には、伝統文化の継承や環境保全、福祉関係などさまざまな地域貢献プロジェクトがありますが、それぞれの市民活動団体に、まず地域通貨に関心を持ってもらうことが肝要です。

6. 地域通貨で住民を巻き込んだ地域づくりの広がり

このように市民団体のプロジェクトが、活動推進のツールとして地域通貨を活用することで、地域住民を巻き込んだ地域づくりの輪が拡大することが期待できます。

さらに地域にはスポーツだけでなく、さまざまな得意分野を持った市民団体が活動しています。それぞれの得意技を活かした「新たな総合型クラブの創設」も期待でき、地域の活性化に貢献できるのではないのでしょうか。これが実現すればまさしく地域密着型で住民主権の総合型クラブの形が見えてくる気がします。

(板垣晶行 東海ブロック地方企画班長、掛川総合スポーツクラブ ゼネラルマネジャー)

(*)「地域通貨」とは

特定の地域内・目的で流通する限定通貨のこと。市民団体やNPOにより発行され、利子はない。地域通貨は、人と人をつなぎ相互交流を深め、支え合って生きる社会の基盤をつくる役割をもつ。

地域経済を活性化する役割（地域内商品券、地産地消促進などがその例）もあるが、日常生活で「自分が提供できること」「自分がしてほしいこと」などをリスト化し、個人が労働を交換する際に時間単位などで支払うのが基本であり、世界各地で行われている。

労働交換は必ずしも1対1の関係ではなく、AさんがBさんにしたことによって、AさんはCさんからしてほしい活動などを提供してもらえる。これらの選択肢が多いほど地域通貨は流通する。

日本では、買い物ポイントと絡め商店街振興など地域活性化の一助として、また、介護などの労働を提供した時間を貯蓄し自分が高齢者になった時に使う貯蓄型の地域通貨などが多くみられる。

総合型クラブでは、上記のような形態に加えて、ボランティア活動を地域通貨で支払いボランティアを活性化したり、会員同士や組織間で得意分野の労働を交換（たとえば、パソコンを教える・習う、など）したりすることもできる。後者では、遊び心で多様なメニューを出すだけでも面白い。

このように地域通貨は、自分の存在価値や役割に気づくこともでき、現金がなくてもあたたかく豊かな生活や地域環境をつくり出すと考えられ、実践されている。

関連リンク：NPO 法人掛川市体育協会 <http://www.kakegawa-taikyo.com/>

関連リンク：「地域通貨」（フリー百科事典「ウィキペディア」）
<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%9C%B0%E5%9F%9F%E9%80%9A%E8%B2%A8>

関連リンク：地域通貨全リスト <http://www.cc-pr.net/list/>